

脳卒中上肢麻痺に対する CI 療法を開始しました

CI 療法とは constraint-induced movement therapy の略で、直訳すると“拘束誘発性運動療法”あるいは“拘束誘導運動療法”です。これは体の一部を拘束して麻痺側上肢を強制的に使わざるを得ない状況を作り出すことで、麻痺側上肢での積極的な運動を促そうという治療法です。

脳卒中により半身の麻痺が生じると麻痺のない上肢を使用することによって身の回りの動作を行なうことが多くなりがちです。この状態が続くと麻痺側上肢を使わないことを学習（学習性不使用）してしまいます。また使用しないので麻痺肢の回復も難しくなります。こうした悪循環によって麻痺した上肢の動きがさらに悪くなることがあります。

CI 療法はこうした慢性期における学習性不使用の改善の一助となり、また積極的に麻痺肢を使用することにより大脳皮質の新たなネットワークが再構築されると指摘されています。

CI 療法はどんな人にも適応するものではありません。麻痺した側の上肢しか使用できないため、一定以上の自動運動ができることが必要となります。具体的には親指と人差し指・中指が 10° 以上自分で伸ばすことができ、手首を 20° 以上自分で手の甲側にそらすことができることが条件となります。また一日何時間も麻痺した上肢で集中的に運動を行なうため、ストレスに耐えられること等も必要となります。

当院では CI 療法の短期入院として 2 週間のコースを行なっています。この 2 週間は土日祝日を含めて毎日約 6 時間の集中訓練を実施します。脳卒中作業療法部門の作業療法士が患者さまそれぞれの状態を確認し、集中訓練する課題をいくつか絞り提供します。またこの集中訓練する課題は状態の変化に応じて変化させていきます。

これまで多くの患者さまが実際に短期入院され 2 週間の集中訓練を受けられましたが、麻痺側上肢の動きや日常生活場面での使用しやすさについて実感を得られており、結果その後の麻痺側上肢のリハビリテーションがより積極的なものとなっています。

CI療法の訓練時間

10:00~10:20	OT介入
10:20~12:00	お一人で行う時間
12:00~12:30	リラクゼーション(OT介入)
12:30~14:00	休憩
14:00~14:20	OT介入
14:20~15:00	お一人で行う時間
15:00~15:20	OT介入
15:20~16:30	お一人で行う時間
16:30~17:10	OT介入

10:00~12:00 14:00~17:00 週7日 × 5時間実施

文責：脳卒中作業療法部門長 村山幸照